

令和 8 年 4 月 2 3 日
のと海洋ふれあいセンター
館長：内平俊春
直通：0768-74-1919

のと海洋ふれあいセンター研究報告 第 31 号の発行について

1 趣旨

のと海洋ふれあいセンターでは、石川県の海岸と浅海域における自然環境の保護・管理を推進するため、その環境と生息生育する動植物に関する基礎的な調査研究を行っています。その研究成果は「のと海洋ふれあいセンター研究報告」として取りまとめ、年 1 回発行しています。

2 執筆・編集

調査研究で得られた資料の取りまとめ、原稿執筆は同センター職員をはじめ、同センターの調査研究に協力して下さる研究者が行い、編集は同センターが行っています。

3 規格 A4 判、206 ページ（白黒 196 ページ、カラー 10 ページ）

4 印刷部数 300 部

5 主な送付先

国・各都道府県の関係機関と図書館、自然史系博物館と水族館、関連大学の図書館・研究施設などへ送付します。また、同センターのホームページでも PDF ファイルを公開します。

(URL) https://notomarine.jp/center/doc/No31_2026.pdf

6 内容

1. 小木曾正造・木谷洋一郎
富山湾で見られたササノツユ属の 1 種 *Diacavolinia* sp. の記録
2. 京谷蒼馬
フタミゾテッポウエビの石川県における初記録
3. 宮崎息吹・東出幸真・豊田賢治・山守瑠奈
能登半島におけるウズイチモンジ *Trochus rota* の出現
4. 宮崎息吹・豊田賢治・山守瑠奈
珠洲市狼煙における穿孔性二枚貝類の巣穴の形態比較
5. 角田啓斗・小木曾正造・鷹巣真琳
本州日本海側におけるフタバコスモガニ *Cosmonotus mclaughlinae* の初記録
6. 角田啓斗・幸塚久典・豊田賢治
能登半島北東部の海岸におけるヒラタブンブクの大量漂着
7. 山守瑠奈・宮崎息吹・豊田賢治
能登半島潮下帯に見られるムラサキウニ巣穴の共生生物
8. 清水哉多・原田彩知子
新潟県で初めて採集されたアオブダイの記録

9. 清水哉多・石澤佑紀・石川訓子
新潟県で初めて採集されたヒラテテナガエビの記録
10. 清水哉多
新潟県で初めて採集されたミナミテナガエビの記録
11. 豊田賢治・京谷蒼馬・滝山直人・篠田晏希・角田啓斗・荒川裕亮・東出幸真
能登半島のヤドカリ類の新産地記録
12. 岡村駿平
カゴシマニギスの日本海石川県沿岸からの初記録
13. 太田悠造
能登半島沿岸で得られた等脚目ウミクワガタ科4種の記録：2種の日本海初記録
14. 能丸恵理子・鈴木信雄・大澤あゆみ・浦田慎
アナオオサの成長観察実験を活用した里海科における理科授業の開発と実践
15. 豊田賢治・角田啓斗・大森紹仁
能登半島におけるイボカギナマコとウチワイカリナマコの記録
16. 角田啓斗・千代田創真・八尾晃史・豊田賢治・栗原良輔
マクラギヤステの山梨県、新潟県、石川県、広島県、福岡県、佐賀県および伊豆諸島新島における初記録ならびに既知記録の整理
17. 小木曾正造・鷹巣真琳・幸塚久典・木谷洋一郎・関口俊男・鈴木信雄
能登町九十九湾沿岸でのドレッジを用いた海底の動物相と粒度組成調査
18. 佐藤宏樹・元村優介・柚村七々実
石川県輪島市沖産のハマダツから得られたダツノヒトガタムシ(カイアシ綱:管口目:ヒトガタムシ科)
19. 渡部泰斗・幸塚久典・豊田賢治
九十九湾周辺のドレッジ調査で得られたクモヒトデ類
20. 渡辺晃史・清水哉多
新潟県本土側で7年ぶりに採集されたニホンイトヨの記録
21. 豊田賢治・有村拓真・角田啓斗・友井拓実
令和6年能登半島地震による海岸隆起後の植物相モニタリング
22. 角田啓斗・谷内口孝治・豊田賢治
北陸地方沿岸におけるハマボウフウの分布状況
23. 佐藤崇範
日本海沿岸における有藻性サンゴ類の分布状況（予報）
24. 荒川裕亮・東出幸真・中出悠介
九十九湾におけるアラサキガンガゼの定着状況-II
25. 荒川裕亮・東出幸真
石川県能登町と珠洲市の河川におけるヤマトシジミの生息状況
26. 荒川裕亮・東出幸真
奥能登豪雨後の町野川におけるカワヤツメ幼生の生息状況

27 のと海洋ふれあいセンター年次報告

ト石川県の砂浜海岸における底生動物モニタリング調査

2025年の5月と9月、高松、甘田、今浜、千里浜の砂浜海岸でナミノリソコエビ等の底生動物の生息状況を調査した。シギ・チドリ類の重要なエサとなっているナミノリソコエビの生息量は、春の調査で短期世代群が優占する傾向が続いている。これは繁殖の開始時期が早まっていることが考えられる。秋の調査では千里浜海岸を除いて、2024年と同様に少ない現存量を記録した。シギ・チドリ類はナミノリソコエビを採餌するためにこれらの海岸に飛来する。今後もナミノリソコエビの繁殖状況が変化する原因を定期的なモニタリング調査によってあきらかにし、シギ・チドリ類に十分なエサが供給できる環境を保全したいと考えている。

II-石川県の砂浜海岸におけるモニタリング調査

のと海洋ふれあいセンターは、石川県の砂浜海岸における人為的な改変と汀線付近の砂の粒度を定期的にモニタリング調査しており、1999（平成 11）年から 5 年ごとに、これまで 5 回実施した。今回は前回 2019 年と同様、計 20 ヶ所を調査したので、その結果を報告した。

III-九十九湾周辺における気象と水質

2024 年 1 月から 12 月に観測した天候、気温、最高・最低気温、降水量、磯の海水温と塩分量、pH、そして赤潮が観察された日数を報告した。また、九十九湾周辺に設定した 13 定点で毎月 1 回、水温、塩分量、pH、および透明度の観測を行ったので、その結果を報告した。当センターでは 2011 年 1 月に定格出力 10kW の太陽光発電装置が整備されたので、その交流発電電力量（kWh）も併せて報告した。